

三河商人道

PART
142

岐阜屋物産有限会社

代表取締役 太田 陽之 君



青年部とは自分の幅を広げる遊び場



太田さんは、飼料・卵を販売する岐阜屋物産(有)の三代目代表取締役。赤鶏と白鶏を掛け合わせた「さくらたまご」や「ドミーあじわいたまご」のスーパー販売をメインとされています。

お客様のことを第一に考えて、社是を『・お客様とともに ・生産者と消費者の架け橋 ・「ありがとう」を届けます』とし、ご自身は営業も含めて、業務全般をハードにこなされています。「なぜ社名に岐阜がついているのか?」とお聞きしたところ、一代目の祖父は岐阜のご出身で、岡崎に来た当初、社名を岐阜屋物産とし瀬戸物を扱っていたそうです。戦争で一旦事業廃業となり、新たに事業を立ち上げる時にその時の名前を引き継いだとのこと。

プライベートでは「子供たちが小さなころは、親子で川の字で寝ていたよ。休みの日にはよくドライブに出かけたな〜」と子煩悩な一面をのぞかせてくれました。最近はお子さんも大きくなり、なかなかそういった時間もなくなったそうですが、ストレスがたまると一人でも高速道路をドライブしているそうです。いつかは大型二輪の免許を取り、ハーレーで優雅にドライブすることが夢なのだとか。

出会いを大切にされる太田さんは、現在YEGではバスケット部、YEG以外では岡信経営塾、岡崎市倫理法人会に在籍されています。「仕事が忙しく、なかなか参加できていないが、落ち着いたならそちらの方も頑張りたい!!」と意欲満々。

YEGとの出会いは、知人からの紹介。31歳の時に入会し、副委員長、委員長、副会長を経験され、委員長の時には、まぼろしの出席率100%委員会を達成されています。また、入会して普段会話ができそうにない年上の方や、大きい企業の方と交流ができたことは、良い経験になったそうです。思い出に残る事業は、10周年事業や、みこし参加。特に愛知産業大学の学生と参加したみこしは、大いに盛り上がり、楽しかった思い出の一つとのこと。現在もみこしの行われる日は、朝から気分がウキウキするそうです。

我々に「日々発心」固定観念にとらわれないようにとおっしゃり、さらに最近のメンバー同士の関係について、「少し上っ面で付き合っているような気がする。人と、人として向き合って付き合っていくことが大事」とアドバイスをくださいました。最後に「青年部とは自分の幅を広げる遊び場」と楽しそうに笑う太田さんがとても印象的でした。



新鮮なたまごはここから出荷されます。



職場ではパートさんとの息もピッタリ。



取材スタッフとハイポーズ!!



取材担当/振興委員会
浅井泰・安藤紀朋・
加藤純也・香村経文・
櫻庭朋樹・志村文教・
蜂須賀大